

学校評価計画表

奈良県立畝傍高等学校 (定時制課程)

教 育 目 標		日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者としての必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成をめざす。		総合評価	
運営方針		知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的で心身ともにたくましく活力ある生徒を育成する。			
平成30年度の成果と課題		本年度重点目標		体的目標	
○定通併修制度を設け、三修制によって3年生2名が卒業した。本年度もさらに多くの生徒の学習ニーズに応えられるよう、希望生徒は三年間で卒業できるように取り組ませたい。	○生徒の日々の生活実態を把握し、基本的生活習慣の確立や基礎学力の向上を目指す取組を継続し、適切な支援を行いたい。	○規範意識の向上を図る。	○基本的な生活習慣の確立を促す。		
		○自他を尊重する心の育成を図る。	○社会のルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。		
		○基礎・基本の定着と進路希望の実現を図る。	○各生徒の悩みや課題の把握と理解に努める。		
		○教職員の資質と指導力の向上を図る。	○お互いを支え合い、信頼し合える人間関係づくりを促す。		
			○確かな学力を身に付けさせるため、魅力ある授業を行う。		
			○将来を見通した進路希望の実現を援助する。		
			○授業公開や研修会などを積極的に行い、自ら指導方法の改善に努める。		
			○常に研鑽に努め、自ら資質の向上を図る。		
具 体 的 目 標	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標	自己評価結果	成 果 と 課 題	改 善 方 策	等 学 校 関 係 者 評 価
教務部	教育活動が円滑に行われるよう、各分掌との連絡、調整を密に行うとともに、行事計画の工夫改善を行う。	教育効果をより高めるために学校行事の調整と授業時間の確保に努める。			
	教務における教育情報資産の管理を徹底する。	個人情報の適切な管理を行うとともに、校務支援システムの円滑な移行に努める。			
生徒指導部	規範意識の向上を目指し、集中・安心して学べる学校づくりを目指す。	校門での立哨、通学路の巡視を定期的に行う。授業中の携帯電話の使用禁止を徹底する。学警連携や安全教育に関する講演会等を通じて、警察との連携を深める。			
	生徒指導に関わる情報を全職員が共有し、様々な事態に迅速に対応できるようにする。	夕礼、会議等で生徒指導の動向や生徒の情報を共有し、迅速に対応できる体制を整える。			
進路指導部	生徒自らが自身の適性を知り、それを生かした希望の進路に進むことができるように、進路学習への前向きな態度を養う。	自分の適性について考える機会を提供し、それを生かせる場所について考えさせる。			
		進学・就職に関する情報の収集と選択について理解させる。			
		希望の進路先を調べたり見学することで、社会人として活躍できる素養を育成する。			
人権教育部	幅広い情報の中から、多様な価値観を理解させ、自分や他人の人権をお互いに尊重できる実践力を身につける。	コミュニケーションを大切にし、互いの違いを正しく理解し、明るいなかま作りに取り組ませる。			
		人権講演会や映画会を通して人権について考え、自らの体験に基づいた人権作文を書かせる。			
		毎学期、職員による人権教育研修を実施する。			
保健体育部	体育的行事を行い、生徒間の交流を深める。	スポーツ行事を年2回実施する。			
	自らの身体の健康について理解させ、健康の保持増進を図る能力を育成する。	スポーツテストを実施し、各自の運動能力を自覚させる。 身体測定や健康診断の結果をもとに、自分の身体状況や健康状態を把握させ、健康な生活を行うよう指導する。			
第1学年	基本的な生活習慣の確立と高校生としての自覚を持たせる。	保護者との連携を重視し、欠席・遅刻・早退や問題行動の減少を図る。			
	集団生活での規律や協力について理解を深める。	挨拶やマナーについて具体的に指導したり、生徒の協調性が向上するクラス運営を図る。			
	生徒が教員に相談したり、話しやすい環境づくりを目指す。	生徒とのコミュニケーションを十分に図ることで、生徒の変化を早く発見し適切な対応ができるようにする。			
第2学年	自らの進路について、意識づけを行う。	HR活動や個人面談を通じて、積極的に進路の情報を提供し、進路選択の重要性を、生徒自らが積極的に考えられるようにする。			
	学校生活での規範意識の向上を図る。	SHRや授業での起立・礼の徹底や挨拶など授業を受ける態度の指導を行う。			

